

インターバンクの声（2015 年 10 月 9 日）

今日もドル円は120円に近い水準でアジア市場に戻ってきた。ロンドン、ニューヨーク市場での高値と安値を確認してもおよそ30銭程度の値幅しかなかった。ドル円の値動きだけから判断すれば、海外市場も甚だ材料不足の相場だったようにも感じてしまうが、実際には英中銀（BOE）の金融政策委員会開催や、欧州中銀（ECB）理事会、米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事録の発表が重なっていた日なのだ。もっともこれらの予定されていた各国中銀の考え方が窺える材料にサプライズがなかったことが波乱なしの相場になったのも確かだが、果たして本当に昨夜の海外市場の反応が薄かった相場を真に受けていいのだろうか。特に前回9月の米FOMC議事録は、米経済について利上げ開始が正当化できる状態に近いと確認したようだが、ドル高によるインフレと輸出の抑制について協議したことも明らかにしている。さらにイエレン議長は中国経済が減速して米経済への影響は限定的だと語っていたはずだが、議事録は世界経済の減速が米景気を回復軌道から逸脱させることはないとの一段の確信を得るまで利上げを待つべきとしている。FOMCメンバーがどうも利上げには相当慎重になっているのではないだろうか。119円台の半ばあたりはドルの買い場と思っていたが、少し作戦を修正する必要があるように感じている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。